

平成 25 年 4 月 1 日
立正大学地球環境科学部環境システム学科
立正大学大学院地球環境科学研究科部環境システム学専攻
環境気象学分野

立正大学環境気象学分野教授に吉崎正憲博士が就任

～「総観気象学研究室」を主唱し「手のひらサイズの積乱雲作成」を標榜～



吉崎教授近影

立正大学地球環境科学部環境システム学科/立正大学大学院地球環境科学研究科部環境システム学専攻の環境気象学分野教授に、平成 25 年 4 月 1 日付けで、吉崎正憲（よしまさのり）博士が着任した。

東京大学大学院理学系研究科在籍中の昭和 50 年 11 月に東京大学海洋研究所助手として採用され、平成 2 年 4 月に気象庁気象研究所に移った後は同研究所主任研究官を歴任し、平成 18 年 3 月末日まで気象研究所予報研究部第一研究室長として活躍した後、同年 4 月 1 日付で独立行政法人海洋研究開発機構地球環境観測研究センター海大陸観測研究計画プロジェクトディレクターに就任した。昭和 56 年 12 月に東京大学にて理学博士の学位を取得しており、大気物理学が専門である。特に降水システム（メソ対流系）についての研究活動を精力的に継続してきた。日本語の主著として『[豪雨・豪雪の気象学](#)』朝倉書店 2007 年がある。

吉崎博士はそれまで予報困難とされていた降水システムの研究において、科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業「メソ対流系の構造と発生・発達メカニズムの解明」で研究代表を務め、メソ対流に対する理解を観測とモデリングにより大いに進展させた。海洋研究開発機構に移ってからは、熱帯気候変動研究のリーダーとして、インド洋からインドネシア多島海を経て西太平洋に至る海域とその周辺で、降水雲やそれを取り巻く大気・海洋の状態を、陸上、船舶、航空機などから多元的に観測し、降水システムのメカニズムや降水システムとエルニーニョなど地球規模の気候変動との関係を明らかにするための研究を推進してきた。

吉崎博士は、立正大学着任後は「総観気象学研究室」を主唱し、従来の研究活動を継続・集大成するとともに、その成果を活かして「手のひらサイズの積乱雲作成」を新たな研究テーマとし、エネルギー問題および水資源問題への貢献をも目指す。

吉崎博士を専任教授として迎え、立正大学環境気象学分野はスタッフが1名増えて教授2名、講師1名、助教1名の4名体制となり、環境気象学分野のみならず、環境システム学科全体として、教育・研究体制が強化され、教育・研究活動のさらなる充実が期待される。

背景

吉崎教授が着任する立正大学地球環境科学部環境システム学科環境気象学分野は、個々の教員の教育・研究活動とともに、熊谷～高崎・前橋にかけて関東平野北西部猛暑の発生メカニズム解明を目的とした観測的研究やコンピュータシミュレーション解析研究を推進してきた。ヒートアイランド等の地表面熱収支の差に起因する比較的小規模な現象を専門とする中川清隆教授および重田祥範助教と、ロスビー波砕波等の大規模な現象を専門とする渡来靖講師に、組織的な積乱雲による中規模の現象を専門とする吉崎正憲教授が加わったことにより、立正大学地球環境科学部環境システム学科環境気象学分野はバランスよく各分野の研究者4名が揃った私立大学としては屈指の気象教育機関となった。

立正大学地球環境科学部環境システム学科の卒業要件総単位数は126単位だが、環境気象学分野で卒業論文を執筆して卒業する際における気象学関連のカリキュラムにおける必修科目および選択必須科目は以下の通りであり、卒業までの修得単位数は最低30単位、最大40単位に及ぶ。

学部1年必修科目

- 気象と水の科学 (2単位)
- 環境気象学概論 (2単位)
- 環境調査の基礎および実習 (2単位)

専門科目A群 (学部2年8単位必修)

- 気候・気象学 (2単位)
- 総観気象学 (2単位)
- 大気大循環論 (2単位)
- 環境気象学実習 (2単位)

専門科目B群 (学部2～4年6単位選択必修、それ以上の単位もすべて卒業要件単位)

- 気候変動論 (2単位)
- 微気象学 (2単位)
- 大気環境モニタリング (2単位)
- 大気環境シミュレーション (2単位)
- 温暖化と酸性雨 (2単位)
- 都市大気環境 (2単位)

----以下2科目は気象分野選択必修科目ではないが、気象分野教員が担当----

- 環境流体力学 (2単位)

シミュレーション技術 (2 単位)

学部 3 年必修科目

 セミナーの基礎 (2 単位)

 セミナー (4 単位)

学部 4 年必修科目

 卒業研究指導 (卒業論文含む) (4 単位)

立正大学には大学院地球環境科学研究科が併設されており、吉崎教授は同研究科環境システム学専攻気圏環境学分野 D④教授として、同分野博士前期課程および後期課程の研究指導も担当する。